

**製品名: Ctip2 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21553**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:96kD;Observed MW:96kD

**抗原情報**

遺伝子名	BCL11B
別名	CTIP2 RIT1
遺伝子 ID	64919.0
SwissProt ID	Q9C0K0
免疫原	ヒト Ctip2 の合成ペプチド

**背景**

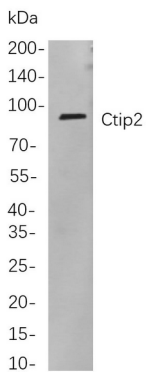
細胞局在: 核。B細胞性 CLL/リンパ腫 11B (BCL11B) ヒト この遺伝子は C2H2 型ジンクフィンガータンパク質をコードし、B細胞悪性腫瘍との関連が示唆される遺伝子 BCL11A と近縁である。この遺伝子の具体的な機能は解明されていないが、コードされているタ

ンパク質は転写抑制因子であることが知られており、ヌクレオソームリモデリングおよびヒストン脱アセチル化酵素複合体 NURD によって制御されている。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 4 つの選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2013 年 8 月]

## 研究分野

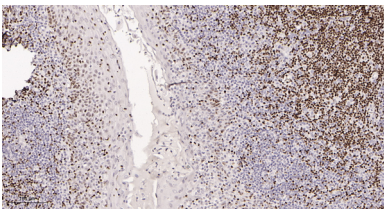
-

## 画像データ

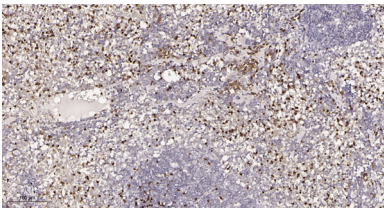


Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析

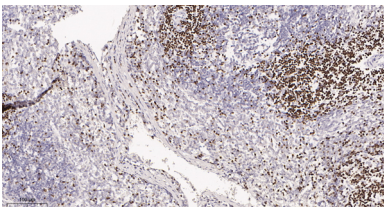
Ctip2 ウサギ mAb を用いた。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学分析。1、Ctip2 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋マウス脾臓組織の免疫組織化学分析。1、Ctip2 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ラット脾臓組織の免疫組織化学分析。1、Ctip2 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。